

高松医療センター

Medical News

私達は、患者さんとそのご家族の立場に立った医療の推進に努めます

謹賀新年



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は大変お世話になり有難うございました。

さて、医療環境が大変厳しい昨今、当院も類にもれず、アフターコロナの患者行動変容による患者数の減少、燃料・材料費の高騰に老朽化した設備の修理費も

加わり、より経営は大変厳しい状態にあります。国立病院機構全体で見ても独立行政法人でありながら国からの補助金はほぼ0に近い状況で、コロナ以降、医業収支の赤字は膨らみ、このままでは法人資金の枯渇が危ぶまれる状況です。

当院が地域の中で存続するためには、自院の立ち位置を見極め必要とされる病院になることが最も重要であると考え、目下、当院のビジョンはブランド化された病院となり長く地域を支えることです。つまり、「高松医療センター」という病院名を聞いた時、患者さん・ご家族・また医療関係者の皆様が、質の高いチーム医療や患者さんに寄り添う医療のイメージや特定の疾患（神経筋難病や結核を含む慢性呼吸器疾患など）の診療における信頼感・期待感を抱いていただけるような病院になることを目指しております。

令和7年度は、6月に高松医療センター体

質改善プロジェクトを立ち上げ、地域連携強化、移行期医療推進、病棟運営検討、診療収益アップ、費用削減、ブランディングの6つをテーマとし、それぞれチームを結成し取り組むとともに院内で成果発表も行い、毎月、職員向けにブランディングニュースも発行しております。経営改善は急務ではありますが、医療の質、職員のモチベーションとのバランスに気を配り、困難に立ち向かう中でも「全職員で力を合わせ楽しく」を心がけております。

手術や救急の機能を縮小し、常勤は脳神経内科、呼吸器内科、一般内科、小児科の内科系4診療科のみと非常に狭い領域ではありますが、ほかとは被らない当院独自の領域である政策医療を中心に、「神経筋疾患分野の拠点病院としての難病医療」「結核を含む呼吸器疾患に関する専門医療」「高齢者や障がい児・障がい者にも優しい一般医療」を3つの柱とし、質の高いチーム医療の提供に努めております。

関連医療機関の先生方におかれましては、他の医療機関では対応が難しい慢性期リハビリテーション入院、在宅環境調整やアドバンスケアプランニング、レスパイト入院、緩和医療入院、急性期治療後の調整に時間を要する退院支援など是非ご相談ください。

また、公的総合病院の先生方には、外科治療や救急対応が必要な患者さんにつきまして引き続きご支援の程お願いいたします。

皆さま本年も
どうぞよろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶



謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

患者数減少や経費増大など厳しい環境の中、当院は「地域にとってなくてはならない病院」を目指し、全職員で改革を進めています。

呼吸器内科では、長年の結核診療に加え、変化する医療ニーズに対応した体制を整備しています。結核患者の減少に伴い、結核専用病床の一部をモデル病床へ移行し、効率的な運用を図りました。また、増加傾向にあ

る非結核性抗酸菌症に対して「非結核性抗酸菌症専門外来」を開設し、入院プログラムも充実させています。さらに、急性期治療後や慢性呼吸器疾患の機能回復・在宅移行を支援する「包括的呼吸リハビリテーション入院」も開始しました。

いずれの取り組みも患者さんから好評をいただいております。該当患者様がおられましたら、当院地域医療連携室までご相談ください。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



副院長
東 條 泰 典
呼吸器内科

新年あけましておめでとうございます。

去年は、神経筋疾患分野の難病医拠点病院としての機能を果たすため、「難病認定看護師チーム」を発足いたしました。役割には、難病患者の主体的な療養生活への支援、患者・家族に対しての相談・助言などがあり、豊かな経験とスキルを生かし、看護師がリーダーシップを発揮できるよう取り組みました。診断とほぼ同時期に人工呼吸器装着の選択を決断しなければなら

ない患者さんの精神的支援を経験することができました。患者さんにご家族の思いが揺らぐ中で、患者さんが自分らしく最期を迎えることができるよう、多職種も含めたチームで丁寧に考えることは、「その人らしい生き方」を尊重することに繋がることを実感いたしました。今後は、より一層、支援体制を構築していきたいと考えております。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



看護部長
小笠原 あゆみ

新年明けましておめでとうございます。

令和8年は60年ぶりの丙午（ひのえうま）の年となります。かつては、丙午に生まれた女性は気性が激しく夫の命を縮めるという迷信から出生数が大幅に減少した時代もありましたが、今では情熱や行動力が高まり勢いのある年と解釈されているようです。時代が変われば解釈や価値観も変わっていくのだなと

思いました。当院も様々な要因のため、急性期医療からセーフティネット及び回復期医療というように診療機能を転換してきました。今年も地域に求められ信頼される医療を提供できる病院として成長しながら、院長以下一丸となって取り組む所存です。

皆様の健康とご多幸を心からお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



事務部長
忌 部 明 年



難病研修会を開催しました

香川県難病相談支援ネットワーク事業の一環として、毎年難病に関する研修を開催しています。このたび11月26日「パーキンソン病の診断と治療」というテーマで香川大学医学部附属病院 脳神経内科科長 鎌田正紀先生に講演していただきました。県内の医療・福祉に携わる100名の方々に参加いただきました。参加者からは「積極的なリハビリが重要であると再認識した」「毎回取り上げてくれるテーマは興味深い」「普段知らない内容が聞けた」「同僚に教えたい」などの好評をいただきました。

令和8年2月には「難病医療体制における移行期医療」を

テーマにシンポジウムを予定しております。これからも神経・筋疾患分野の難病診療分野別拠点病院として、難病の患者さんやそのご家族の方々が安心して地域で暮らせるよう関係機関と連携を図っていききたいと思います。



香川県難病相談支援ネットワーク事業
令和7年度 第1回 神経難病研修会

【テーマ】 パーキンソン病の診断と治療

香川大学医学部附属病院 脳神経内科 科長
かまた まさき
【講師】 鎌田 正紀 先生

【ご略歴】 (昭和47年9月3日生)
徳島大学医学部神経科 卒業
徳島大学大学院医学部教育看護学専攻 入学
平成14年 3月 同上 修了

【職歴】
平成14年 5月 徳島大学医学部附属病院 研修医
平成15年 5月 徳島大学医学部附属病院 研修医
平成16年 8月 徳島大学医学部附属病院 研修医
平成17年 4月 徳島大学医学部 神経内科 医員
平成18年 4月 パークンソン病の診断と治療 医員
平成19年 4月 徳島大学医学部 神経内科 医員
平成20年 4月 同上 特任助産師 助産部長
平成21年 3月 同上 助産
平成22年 4月 香川大学医学部附属病院 産科 産科部長
令和 4年 4月 同上 産科部長
令和 6年 4月 徳島大学医学部附属病院 産科 産科部長
令和 7年 4月 香川大学医学部附属病院 産科 産科部長

令和7年 11月26日(水)

【会場】 独立行政法人国立病院機構 高松医療センター 作業療法棟

【受付】 13:30~
【講演】 14:00~15:00
【意見交換】 15:00~15:30

申込み 締め切り 令和7年 9月26日(金)

申込み方法 同封の「参加申込書」に必要事項をご記載の上、FAXにてお申込みください。

主 催： 独立行政法人国立病院機構 高松医療センター
お問い合わせ： 難病研修事業担当 (原田部長) TEL:087-841-2146(代表)



防災訓練を行いました

南海トラフ地震は、今後30年以内に80%の確率で発生すると言われています。高松市では震度6強、建物倒壊や液状化などの甚大な被害が想定されています。

「備えあれば憂いなし」と言われますが、このたび12月10日に災害・火災訓練を実施いたしました。BCP机上訓練、発災からの速やかな本部立ち上げと各担当者の役割遂行に向けた問題点を抽出しました。また、火災・避難訓練では、消火器による初期消火訓練の後、エアーストレッチャーでの水平移動と階段昇

降、緩降機(救助袋)を用いた避難誘導方法について防災担当の方からレクチャーを受け、実際に体験しました。訓練を実施したことで様々な課題が浮き彫りになりました。

訓練前の12月8日には、青森県で震度6強の地震が発生し、たくさんの被害が出ています。当院には、自力避難が困難で、人工呼吸器や酸素を使用されている患者さんが多数入院されています。万が一の際にも患者さんや職員が安全に避難できるよう、今後も災害訓練を積み重ねてまいります。



外来診療担当一覧表

診療受付：8：30～11：30

診療時間：8：45～17：15

令和8年1月1日現在

診療科		月	火	水	木	金
内科	午前	大森 実	糖尿病 細川 等	糖尿病 細川 等	糖尿病 細川 等 内科 山野 智子	
	午後	山野 智子	糖尿病 細川 等			高橋 慶介
脳神経内科	午前		市原 典子	第1・3週 野中 和香子 第2・4週 淡田 佳子		小児神経内科 第1・3週 夢田羅 勝義
	午後	國土 曜平				小児神経内科 第1・3週 夢田羅 勝義
呼吸器科	午前	東條 泰典	田所 明	二見 仁康		田所 明
	午後			東條 泰典		
循環器科	午前			辻 哲平		ペースメーカー外来 山口 耕太
	午後		水重 克文			第2・4週 水重 克文
整形外科	午前	濱崎 寛	中村 竜馬			
	午後				濱崎 寛	
泌尿器科	午後				加藤 琢磨	
皮膚科	午後	第1・3・5週 山村 健太郎 第2・4週 野々宮 結子				
歯科	午後		木山 史子			木山 史子

※外来診療は予約制を基本としています。診察予約につきましては地域医療連携室へお問い合わせください。

アクセス

〒761-0193

高松市新田町乙8番地

地域医療連携室

TEL：087-841-2162

FAX：087-841-2178

お車をご利用の方

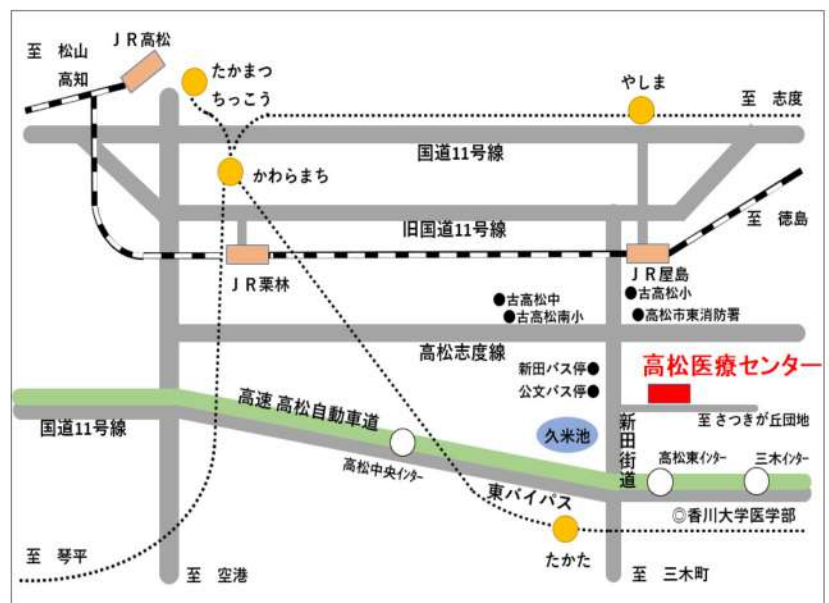
J R屋島駅西側(馬場先)から南へ延びる新田街道の途中、信号機のある三叉路を東に上がった丘陵地にあります。駐車場は無料。

バスをご利用の方

ことでんバス『大学病院線』乗車

(起点：高松駅 終点：ことでん高田駅)

『高松医療センター』下車



独立行政法人 国立病院機構 高松医療センター
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION TAKAMATSU MEDICAL CENTER

発行責任者：院長 市原 典子

編集責任者：副院長 東條 泰典

こちらのQRコードから当院の
ホームページをご覧ください

